
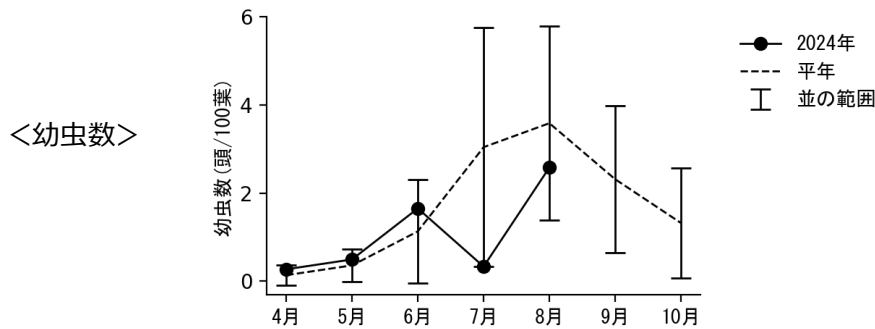
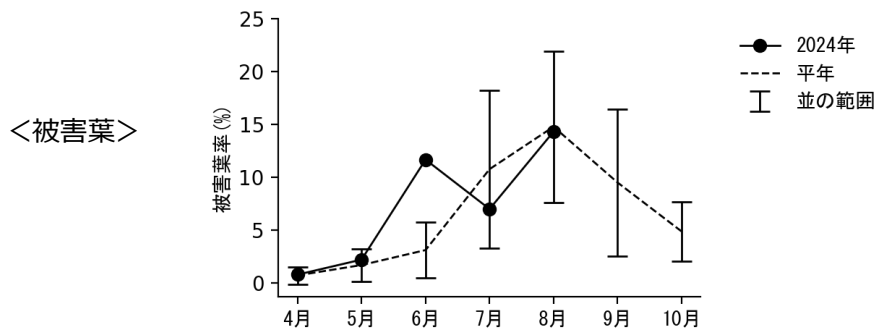


作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	① イモキバガ (イモコガ)		
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	8 月からの増減傾向	↘	
	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

今期と平年の発生推移




・発生ほ場率100% (平年 : 94.8%)

防除のポイント

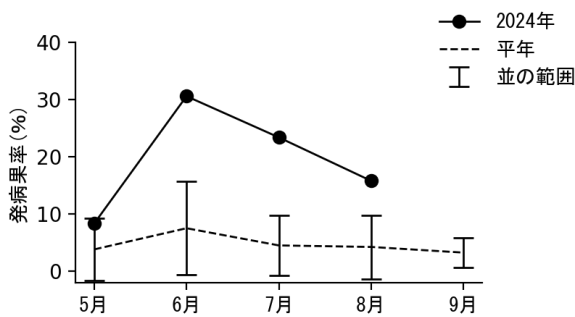
・発生初期の防除が有効であるので、被害葉がみられたら薬剤散布する。



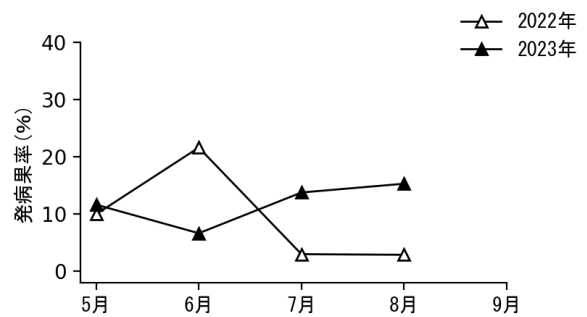
作物	かんきつ（温州みかん）		地域	沖縄群島
病害虫名	① そうか病			
調査結果	8月の発生量（平年比）	やや多		
予報	8月からの増減傾向	→		
	9月の発生量（平年比）	多		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

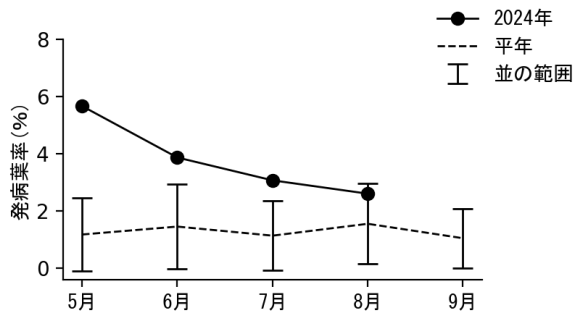
発病果率の推移（今期と平年）



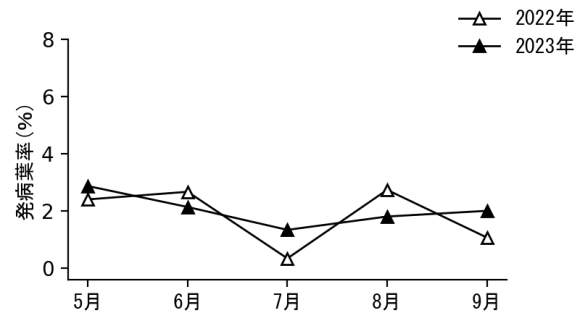
発病果率の推移（過去2年）



発病葉率の推移（今期と平年）



発病葉率の推移（過去2年）




- ・ 果実の発病度3.2（平年1.4）
- ・ 発生ほ場率100%（平年：56.5%）

防除のポイント

- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

被害果→

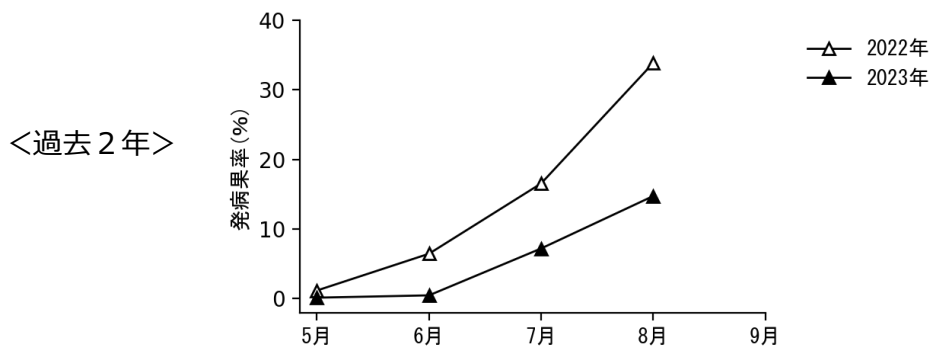
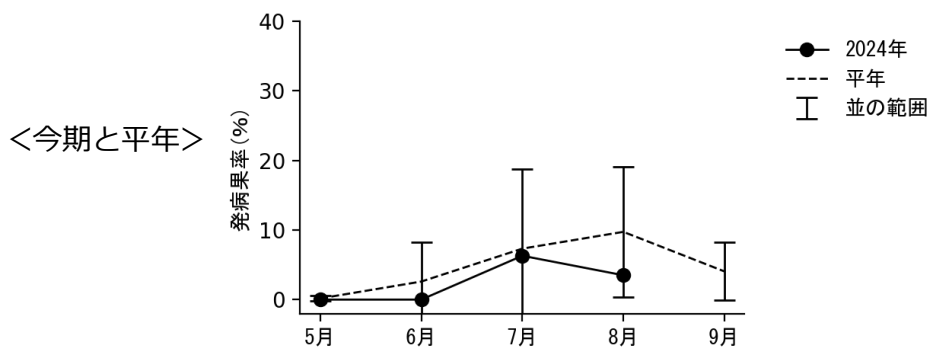


作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島	
病害虫名	② 黒点病			
調査結果	8 月の発生量（平年比）			並
予報	8 月からの増減傾向			↘
	9 月の発生量（平年比）	並		

予報の根拠 平年の発生量の推移（↓）

調査結果


発病果率の推移



- ・ 果実の発病度0.7（平年2.6）
- ・ 発生ほ場率80.0%（平年：69.6%）

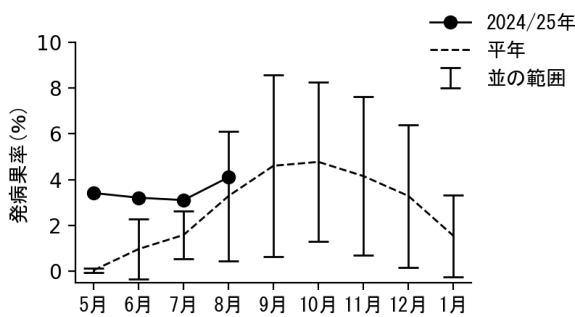
防除のポイント

- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

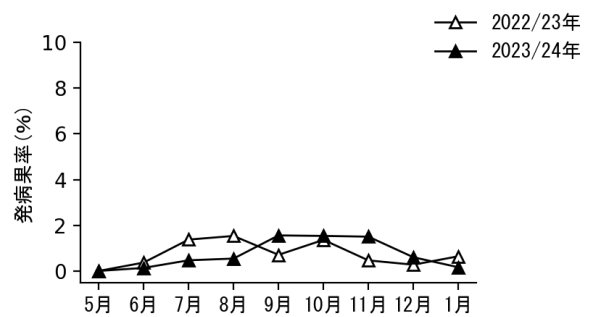
作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	8 月からの増減傾向	↗	
		9 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

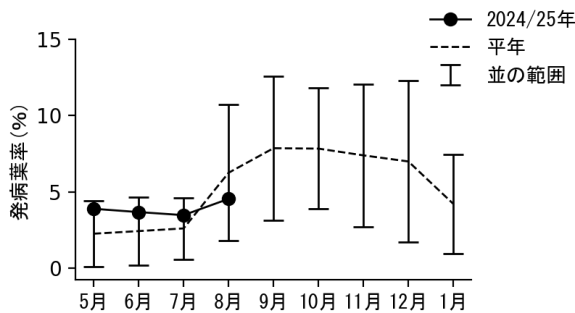
発病果率の推移 (今期と平年)



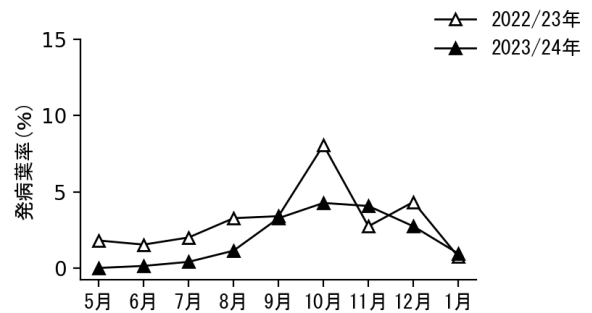
発病果率の推移 (過去 2 年)



発病葉率の推移 (今期と平年)



発病葉率の推移 (過去 2 年)




- ・ 果実の発病度0.8 (平年0.6)
- ・ 発生ほ場率100% (平年 : 72.9%)

防除のポイント

- ・ 本病はミカンハモグリガによる食害痕から発生しやすく、翌年の伝染源になるので、ミカンハモグリガ被害葉の除去に努め、被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。
- ・ 罹病枝などの病斑が伝染源となり、台風による葉や枝の傷口 (風傷) は感染を助長することから、台風前後ともに薬剤防除を行う。

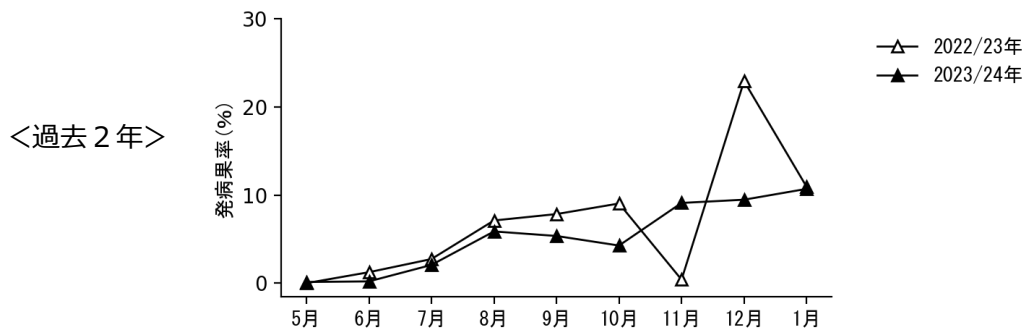
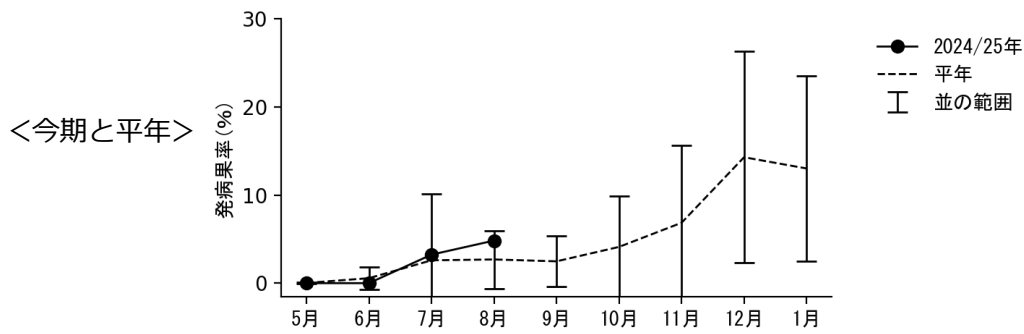
被害葉→



作物	かんきつ（タンカン）		地域	沖縄群島
病害虫名	② 黒点病			
調査結果	8 月の発生量（平年比）	並		
予報	8 月からの増減傾向	→		
	9 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

発病果率の推移



- ・ 果実の発病度1.0（平年0.7）
- ・ 発生ほ場率80.0%（平年：52.1%）

防除のポイント

- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

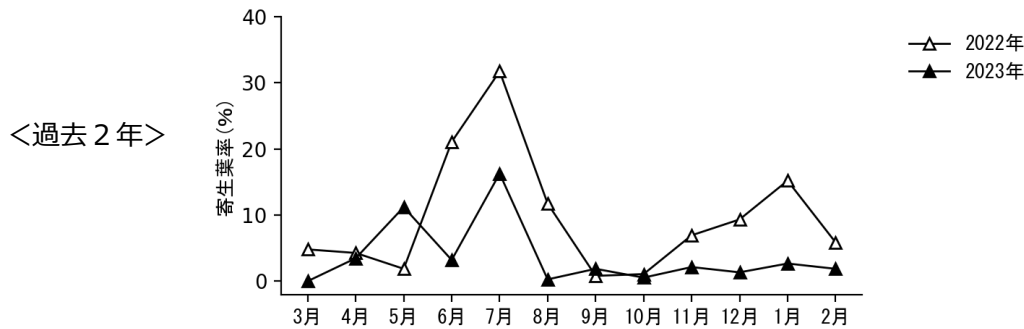
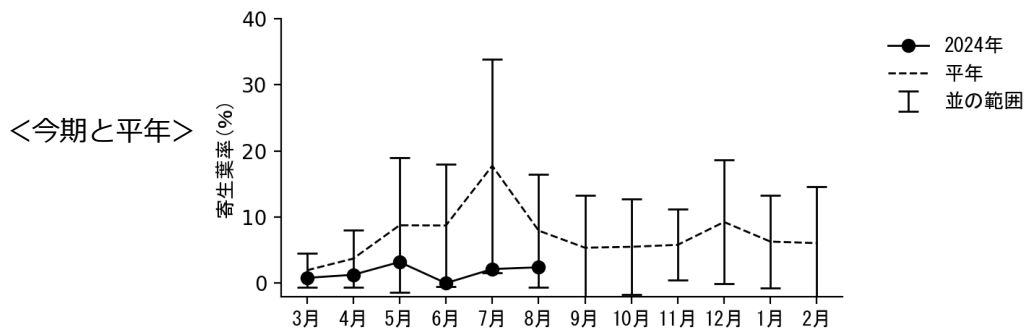
作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハダニ類		
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報	8 月からの増減傾向	↘	
	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	



ミカンハダニ

調査結果

寄生葉率の推移




- ・発生種：ミカンハダニ
- ・発生ほ場率20.0% (平年：52.1%)

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

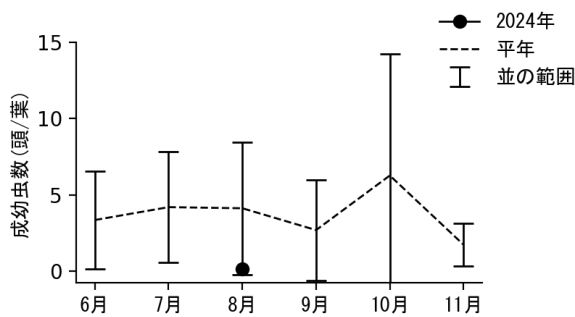


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

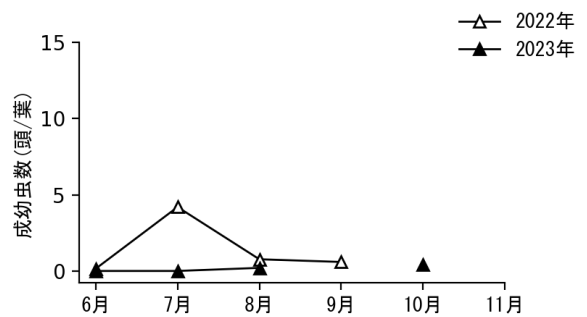
作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	8 月からの増減傾向	↘	
	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

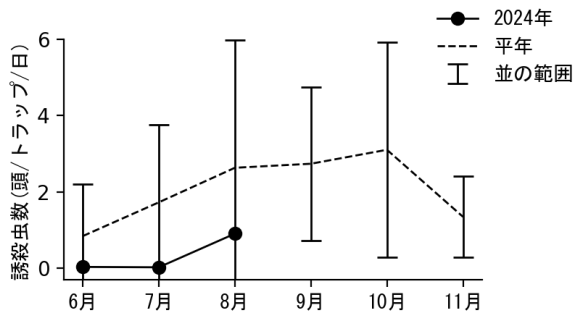
葉当たり成幼虫数の推移 (今期と平年)



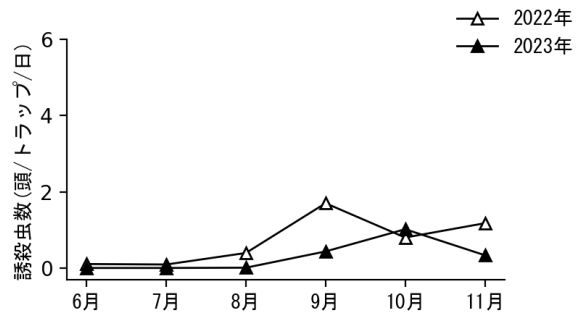
葉当たり成幼虫数の推移 (過去 2 年)



トラップ当たり誘殺虫数の推移 (今期と平年)



トラップ当たり誘殺虫数の推移 (過去 2 年)




・発生施設率83.3% (平年 : 75.0%)

防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 収穫期に発生の多かった施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

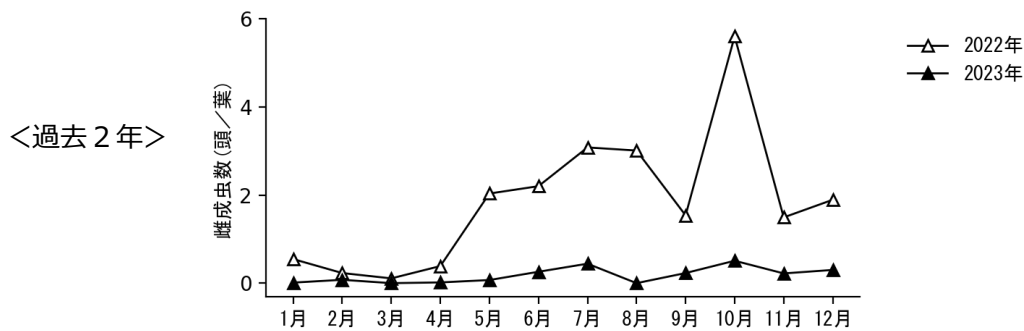
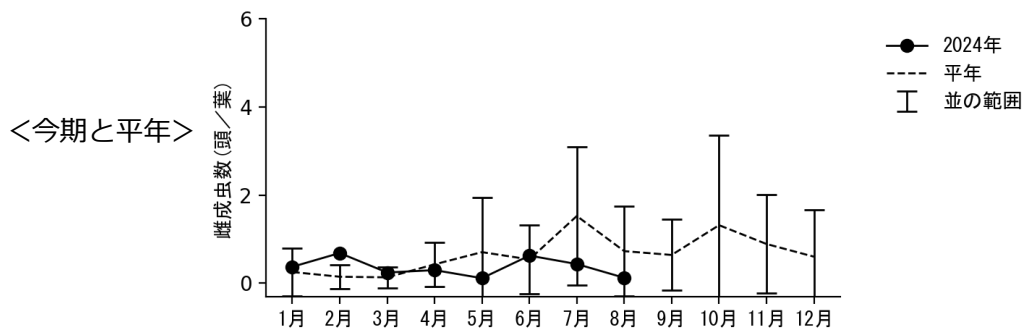


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー		地域	沖縄群島
病害虫名	② ハダニ類			
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	並		
予報	8 月からの増減傾向	→		
	9 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率50.0% (平年：51.3%)

防除のポイント

・多発すると防除が困難となる。特に収穫時、発生が多くみられた施設では、多発する傾向があるため早期発見・防除に努める。

・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状



マンゴーツメハダニ

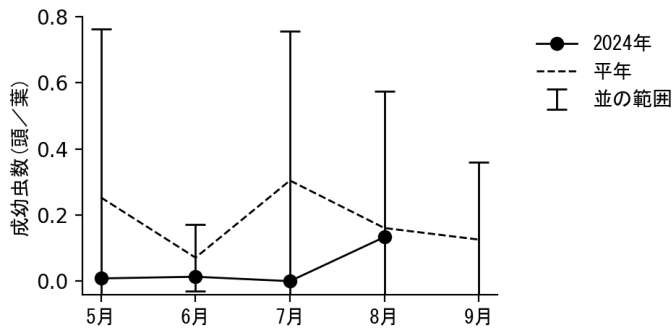
作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	① アブラムシ類		
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報	8 月からの増減傾向	→	
	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	



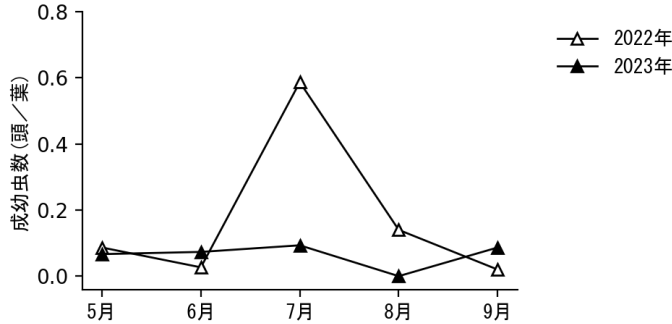
調査結果

成幼虫数の推移

<今期と平年>




<過去2年>



- ・発生種：ワタアブラムシ
- ・発生ほ場率20.0% (平年：20.0%)

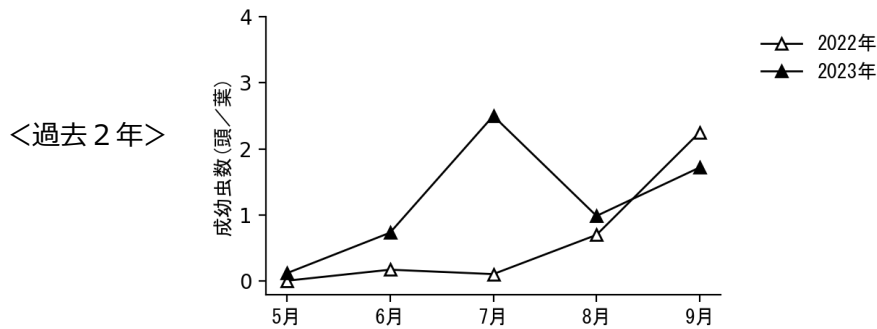
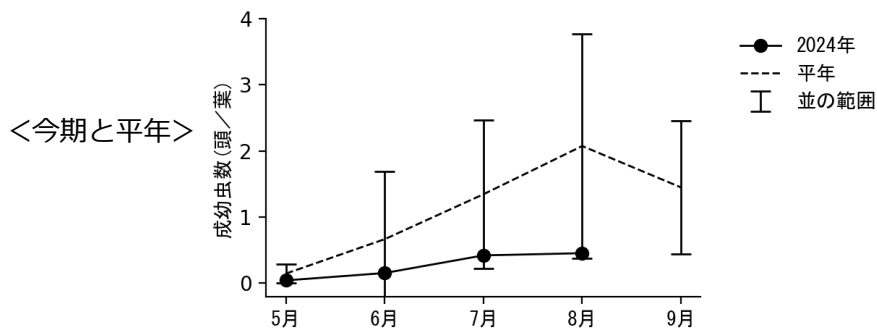
防除のポイント

- ・発生源となるほ場内の雑草を除去する。
- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、茎頂付近や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。

作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	フタテンミドリヒメヨコバイ		
調査結果	8月の発生量（平年比）	並	 成虫
予報	8月からの増減傾向	↘	
	9月の発生量（平年比）	やや少	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）	

調査結果

成幼虫数の推移



・発生ほ場率100%（平年：82.2%）

防除のポイント

・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。

